

「第二宣教旅行が終わる」

2016年07月30日

使徒言行録 18 章 18 節～23 節。パウロは、なおしばらくの間ここに滞在したが、やがて兄弟たちに別れを告げて、船でシリア州へ旅立った。プリスキラとアキラも同行した。パウロは誓願を立てていたのので、ケンクレアイで髪を切った。一行がエフェソに到着したとき、パウロは二人をそこに残して自分だけ会堂に入り、ユダヤ人と論じ合った。人々はもうしばらく滞在するように願ったが、パウロはそれを断り、「神の御心ならば、また戻って来ます」と言って別れを告げ、エフェソから船出した。カイサリアに到着して、教会に挨拶をするためにエルサレムへ上り、アンティオキアに下った。パウロはしばらくここで過ごした後、また旅に出て、ガラテヤやフリギアの地方を次々に巡回し、すべての弟子たちを力づけた。

パウロはコリントに1年6ヶ月という長期間滞在して、十字架につけられたキリストを宣べ伝えた。卑しい職業とされたテント造りをしながら、低さ、愚かさに徹した宣教であった。コリント教会を立ち上げ、一応の目的が達成されたのであろう、パウロは船でシリア州に旅立った。テント造りを一緒にしたアキラとプリスキラ夫婦が同行した。この時、パウロは誓願を立てたという。この誓願は「ナジル人の誓願」のように思える。ナジル人の誓願は民数記6章に規定されている。誓願の期間中は聖なる人として過ごし酒類を断ち、頭髪を剃らず、死体に触れない。そして、誓願の期間が満ちた日に、臨在の幕屋の入り口で剃髪し、規定の捧げ物をする。ケンクレアイで髪を切ったというから、ナジル人の誓願ではないようだ。何を誓願したのか、なぜケンクレアイで剃髪したのか、分からない。使徒言行録の著者は、パウロを律法に忠実なユダヤ人として描いたのであろうか。

パウロたちの一行はエフェソに到着した。エフェソはアジア州の首都で総督府が置かれ、パウロは以前から宣教を望んでいた地であった。パウロはプリスキラとアキラ夫婦をそこに残して自分だけ会堂に入り、ユダヤ人と論じ合った。パウロの宣教に人々は興味を持ったのであろう、もうしばらく滞在するように願った。しかし、パウロはそれを断り、「神の御心ならば、また戻って来ます」と言って別れを告げ、エフェソから船出した。神の御心によってパウロの望みが叶い、第三宣教旅行でエフェソに3年間滞在し、伝道している。パウロの宣教において、エフェソ伝道は最も大きな成果を上げたと言える。弟子たちを近隣の諸都市にも遣わし、いくつもの教会を立ち上げている。

エフェソから、一行は船でユダヤのカイサリア港に到着した。ここから、エルサレム教会に挨拶するために徒歩で上った。エルサレム教会では、パウロたちの異邦人伝道について報告がなされ、皆大きな喜びに包まれただろう。

エルサレム教会から送り出され、宣教旅行に送り出してくれたベース教会のアンティオキア教会に戻って来た。教会は、彼らの労苦をねぎらい、宣教の成果が上がったことを喜び、神に感謝の祈りを捧げたことだろう。

第二宣教旅行は終わった。 諸会堂での宣教でユダヤ人たちから手厳しい反対を受けた。迫害を受け、町に暴動を起こすくらいの激しい抵抗であった。しかし、異邦人たちは、主イエスの福音を受け入れ、教会は新しい展望を見たのである。

パウロはしばらくアンティオキア教会で過ごし、また旅に出て、ガラテヤやフリギアの地方を次々に巡回し、すべての弟子たちを力づけた。第三宣教旅行に出発したのである。